



97号

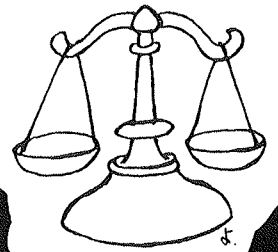
真宗大谷派
高德寺通信

2022年新年号



(1)

シビ王と 鳩と鷹



昔昔、インドにシビ王という王様がおりました。ある日、お城の窓から鳩が入って来て、シビ王の元へやってきました。そしてこう言いました。「王様、助けて下さい。鷹に追われて逃げて来ました。」それを聞いてシビ王は、鳩をかくまってやりました。そこに、鷹がやって来て、「王様、今、鳩がここに逃げて来たはずだが、今すぐ私に渡してほしい。」と言ったのです。鳩を渡せば鷹に食べられてしまうだろう。そう思った王様は「渡すことは出来ない。」と答えました。すると鷹は「もう何日も食べ物をお口にしておらず、このままでは死んでしまうだろう。王様、あなたに鳩は助けて、この私は助けず死んでもかまわないとおっしゃるのか？」その鷹の言葉を聞いて、シビ王は困ってしまいました。しばらく考えて、シビ王は、それでは私の肉を食べ

てもらおうと考えて、自分の足のももの肉を鳩の大きさと同じ位に切り取って鷹に差し出したのです。それを見た鷹は少し驚きましたが、さすがに「王様、それでは肉が足りませんぞ。」と言いました。そして言われて王様は仕方なく、反対の足のももの肉を切り取って、先程の肉とともに差し出しました。すると鷹は「まだ足りませぬ。」と言ったのです。シビ王は驚いて家来に秤を持って来させました。そして秤の皿に鳩を乗せ、反対の皿に自分の足のももの肉を二切れ乗せました。ももの肉の方が重いはずですが、鳩の方が重く、下にさがっています。シビ王は家来に「この秤は壊れているに違いない。新しい秤を持ってきて、もう一度量ってみよ。」と言うや、家来は新しい秤で量ってみましたが、やはり先程と同様、鳩の方が重いのです。シビ王は「おかしいなあ」と首をかしげながら一人考えているのでした。そして、「あ、分かった!!」と言うなり、自ら秤に乗ったのです。するとどうでしょう。見る限りシビ王の方が重いのに、秤はピタッと釣り合っています。どうです、鳩のいのちも、王様のいのちも、その重さは同じ、鷹よりも小さな鳩の方が軽いとか、王様だから尊く重いというようなことは無いのです。そのことにシビ王は気づいたのでした。そして王様は鷹に言いました。「どうぞ私を食べて元氣を出して下さい。」すると鷹は帝釈天に姿を変えて「いのちの尊さに気づき、自らのいのち

ちを私に捧げてくれた。あなたの行いは本当に素晴らしく、あたた々な行いである。あなたはきっと仏さまになられるでしょう。」と言って、シビ王の行いを褒め称えました。(「ジャータカ物語より」)

【「ジャータカ物語」…釋尊がインドに生まれる前ヒトや動物として生を受けていた前世の物語のこと。本生譚とも言う。ジャータカ物語には547の話が収められていて、その多くは紀元前3世紀頃インドの民間に伝わる伝説やお伽話を題材として、仏教的な色彩を加えて作られたものと言われている。

浄土真宗ではお念仏(南無阿弥陀仏)を称えることを重んじます。お念仏のことを「称名念仏」と言います。親鸞聖人は称名念仏の「称」は「稱」と同じですとおっしゃっています。「一念多念文意に

「稱」は、御名をとなうることなり。また、稱は、はかりというところなり。はかりというは、もののほどをさだめることなり。名号を稱すること、とこえ、ひとこえ、きくひとこえ、かうこころ、一念もなければ、実報土へうまるともうすところなり。

現代語訳

「稱」は阿弥陀仏のみ名を称えるということである。また「稱」の字には「はかり」という意味もある。「はかり」というのは、ものこの程度をそのままに定めることである。名号を称えることばけず、十声や一声のものや、ただ名号を聞て信

じるものであっても、少しも本願を疑う心かなければ、真実の浄土へ生れるという意味である……とあります。秤は1kgの物を乗せると、そのまま1kgの目盛りを指しますよね。シビ王のように自分の思いを入れずに、そのままが秤の使命です。ですから「称名念仏」とは、秤のように、なまあみだぶつ(なんまんだぶつ)という言葉そのまますべて口に出すことです。阿弥陀仏の正式名称「南無阿弥陀仏」を称えると阿弥陀様が称えた人に願いをかけてくれます。その願いを本願と言います。「誰ともくらべる必要のない、天王品のあなただを、いのち尽きるその日まで、堂々と生き生きと生きてください」と願いをかけてくださるのです。先程、秤は秤と同じとお伝えしましたが、「聞く」(聞くこえてくる)という意味もあります。阿弥陀様の願いがはたらきとなって、私の口からそのまま称えられると、そのお念仏が聞こえて来ます。聞くは聴く(自分から進んで理解しようと耳を傾ける)と異なり、響きいてくるという意味があります。自宅のお内仏(お仏壇)や、お寺の本堂のご本尊、お墓の前などで「なんまんだぶつ」とお念仏を称える時、自分の口から出たお念仏を自分自身が聞くといいことになります。シビ王のように「思い」で生きている我々人間は、いつもいつも思いを超えた「はたらき」に触れていないとすべし。プーモードになつてしまつたのです。ですから「称名念仏」は大切なことです。

報恩講報告

2021年

10月23日(土) 巖修



去る10月23日(土) 秋晴れの中、報恩講をお勤めいたしました。今年も昨年同様、一般の方のご参詣を遠慮して頂きまして、総代、世話人の方々とスタッフのみのお参りとさせて頂きました。9月30日に緊急事態宣言が解除となり、住職の長男の五右と長女由真も今回一緒にお参り出来ましたことは、有ること難しのおかげさんでありました。法話は住職が、
「汝、起ちて更に衣服を整うべし」という題でお話しさせて頂きました。高德寺のホームページからご覧頂けます。2年連続の内勤めとなつてまいりました。来年は有縁の方々とともに勤められますことを念じております。

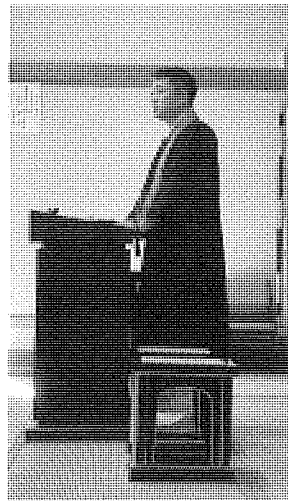


◆ お勤め終了時に記念撮影をいたしました。
(撮影時のみ、マスクを外させて頂きました。)

スナツプ



◆ 釋る吾が御正忌の御文
を拝読しました。



◆ 感話 ← 挨拶 → する釋る吾



◆ 距離をとりながら正信偈を勤めました。



高德寺ホームページのトップ画面の

① 法話動画 というところをクリックしてください。

② 少し下へスクロールすると「新着動画」の下に

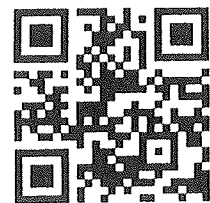
2020年度の動画はこちら

2021年度の動画はこちら

とありますので、観たいところをクリックして
ご覧ください。(報恩講の法話が観れます)

高德寺ホームページ
の

QRコードです



釋了吾の 八女日記



皆さま、ご無沙汰をしております。福岡県八女市より筆を執らせていただいております。稲穂が金色に色づいていたのもついでの間まで、お米はすっかり刈り取られ、新米が食卓に並んで久しくなりました。田んぼは丸裸で、寒そうにしております。皆さんは、お米はいただきますか？私は九州に来るまで、炊飯を自分でしておりませんでしたから、新米の時は水を減らすなどという高等？テクニクは知らなかったものです。しかし、一人暮らしも早4年目、今ではお米をべちゃべちゃにするような愚行はいたしません。たまに炊飯器のスイッチを入れ忘れ、朝にガックリしている時はあります。早いもので今年も執筆時では11月になりました。皆さんは、どのような一年でしたでしょうか？コロナ禍が猛威を振るう

た夏はもう昔のような心地がいたしますが、大変不更を強いられた一年であつたように記憶しております。生活状況が一変した方もおられると思います。様々、この娑婆世界では「ご縁」によって自分の生活状況というものは変わっていくなあとあります。良い「ご縁」もあれば、自分にとって都合の悪い「ご縁」もまたあります。人間関係も「ご縁」、病氣も「ご縁」、事故や災害も「ご縁」。そういたたいていくと、「じゃあその「ご縁」ってなんなんだ、何かの報いなのか」と思ってしまうのです。そこは不可思議なものでしょうですね。我々人間には思ひはかることのできない、そういう不可思議なご縁によって、日々揺さぶられる人生を生活している、実は不安定な毎日を生活しているのです。そういうことを思うと、本当に今日一日を生きていられるとうことに、有難さを感じます。当たり前前のいのちではないのです。といつのも、この筆を執っている11月12日は、先代の住職、私の祖父

※ の祥月命日になります。去年も今年も命日は八女のお寺の本堂でお参りをしました。今日もおいちゃんのおかげで生きております。有り難うございました。いつかは分りませんが、娑婆の縁尽きて、浄土に参らせていただいたときには、またお会いしましょうという気持ちでお勤めをしたものです。

さて、去る10月23日(土)は、高德寺の報恩講が勤まりました。私も久しぶりに東京に帰ってお勤めをいたしました。2年ぶりにお会いする方が多く、私が誰かお判りになれない方もおられました。(笑) それもそうだと思います。痩せましたし、おまけにマスクをしておりますから…。ダイエットの効果というか、有難いことだと逆に嬉しくなりました。前号(96号)でも書きましたが、まだダイエットは継続中ですが、前号よりもだいぶ、また減っております。しかし、身体というものは面白いです。ずいぶんと同じ食事、運動をしていると、体重の減り

は悪くなり、実際、このところは停滞期、というものにつかまっております。ダイエットをされたことがある方ならば、「ああ、そこが一番辛んだぞ」と思われるかもしれません。暫く頑張っているのに体重が減らない時期で大変なストレスになります。仕事もしながらですと、なかなか応える時もあります。しかしながら、お寺の方や友人、家族からの「痩せたね」「頑張ってるね」という何気ない一言が、また頑張ろうという気持ちを起させてくれます。そういう言葉は、言った本人は何気なくでも、受け取る側は大変に恩義を感じますが、逆のこともあります。何気ない一言に傷つき、恨みを抱いてしまう…。人間は言語コミュニケーションの生き物ですから、本当に言葉というものの重みを、今書いていて、あらためて恐ろしく感じるところですが、恐らくもあり、素晴しくもある、そういう言葉のコミュニケーションがコロナで制限された一年でした。対面で自由にお喋り出来るような年に、来年はなると良いなあと思っております。皆様におかれましては、毎日を大切に、共に生きてまいりましょう。「また来年」は当たり前では無い、有り難い、得難いものです。南無阿弥陀佛。(つづく)

2022年

修正会^{しゅ しょう え}

1月1日 10時ヨリ

本堂にてお勤めいたします

- ◆ 玄関で手の消毒をしてから本堂にお入りください。
- ◆ 必ずマスクの着用をしてください。

※ 新型コロナウイルス（オミクロン株）の感染者数が急増したり、緊急事態宣言等が出された場合には、ご参詣をお断りして、^{うちがと}内勤め（寺の者だけでのお勤め）に変更させて頂くこともあります。

◎参詣をご予定の方は、事前にお問い合わせください... m(ー) m

寺子屋の 時間

2022年は

『しょうしん ねん ぶつ げ しょうしんげ』
正信念仏偈 (正信偈)』

を一緒に味わってみたいと
思っております。毎月一回(8月と9月はお休みします。)

14:00～(MAX 17:00まで)
どなたでもご参加頂けます。

→ P.11の
年間行事を
ご覧ください。

※『寺旅』はタイミングをみて再開したいと考えてます。

(9) *寺子屋の参加費はお一人様 500円です。

報恩講ご協力御礼♪... (^人^)

今年もお隣の^{げんつうじ}源通寺さんのご住職ならびに副住職さんに
機材の借用と編集作業のご協力をしていただきました♪
この場を借りまして御礼申し上げます。合掌

おみかき

2021.9/12

新井和子さん 新井由真さん
石井玉枝さん 菅原悟さん
菅原千穂さん 寛谷恵美子さん
水越拓路さん 水越和子さん
柳澤佐智子さん 山本洋祐さん

奉仕 御礼

2021.12/12

新井和子さん 石井玉枝さん
児玉金助さん 清水和美さん
菅原悟さん 菅原千穂さん
杉村健一さん 塚田和子さん
塚田太郎さん 寛谷恵美子さん
水越拓路さん 水越和子さん
柳澤佐智子さん 山本洋祐さん

おかげさんで仏具がピカピカになりました...♪

Kanpa Onrei

応援して頂き
まして心より御礼
申し上げます♪

神野くららさん 江守敏雄さん 金山徳喜さん
大槻宏子さん 金山喜昭さん

2022 ねん

高德寺年中行事

10月

- ◆ 報恩講
(10月22日(土))
※詳細は寺報・HPで
お知らせいたします。
- ◆ 寺子屋の時間
(10月8日(土))

9月

- ◆ おみぎきの会 (9月11日(日))
- ◆ 秋彼岸会 (9月20日～26日)
9月23日(秋分の日)の11:30より
本堂で彼岸会の法要があります。
※寺子屋の時間はお休みです。

8月

- ◆ 寺子屋の時間は
お休みさせていただきます。

7月

- ◆ おみぎきの会 (7月10日(日))
- ◆ GOENS
『ザリテ- ライブパーティー』
(7月24日(日))
- ◆ 寺子屋の時間
(7月30日(土))

11月

- ◆ 寺子屋の時間
(11月19日(土))

12月

- ◆ おみぎきの会
(12月25日(日))
- ◆ 寺子屋の時間
(12月3日(土))

1月

- ◆ 修正会 (1月1日)
10:00より本堂で勤めします。
- ◆ 寺子屋の時間
(1月22日(土)) ※参加費
お一人500円
※毎回14:00～17:00です。

2月

- ◆ 寺子屋の時間
(2月19日(土))

3月

- ◆ おみぎきの会 (3月13日(日))
- ◆ 春彼岸会 (3月18日～24日)
3月21日(春分の日)の11:30より
本堂で永代経の法要があります。
- ◆ 寺子屋の時間
(3月26日(土))

4月

- ◆ 寺子屋の時間
(4月23日(土))

5月

- ◆ 寺子屋の時間
(5月14日(土))
- ◆ 高德寺旅行会
(5月27日(金)～29日(日))
※詳細は寺報(春号)でお伝えいた
します。

6月

- ◆ 寺子屋の時間
(6月25日(土))



11月28日、中村吉右衛門さんご命
終された。とても素敵な歌舞伎
役者さんで、様々な分野で活躍
された。私は吉右衛門さんに演
じる「鬼平犯科帳」が大好きで
ちようど会社を辞めて寺に入った
頃、まだ原作者の池波正太郎
さんが自う作品をチェックされてい
た、TVのオーストリアスから、毎週集
しみに観ていた。ある日電車
内で向いに座っていたご婦人が、
鬼平の小説を読んでいるのを
見かけた。「へえ、小説もあるん
だ」と、初めて小説の存在を知り
それから小説を読みはじめた。
いや、面白いのなの？ あっという間
に全巻を読み終えたのを今でも覚えてる。江戸の時代
劇だが、勧善懲悪ではなく、人間の業や登場人物の心の葛藤
も織り交ぜ、人情や風情に溢れていて、私の心を鷲掴みにした。その主人公、長谷川平蔵を長年演じて
こられた吉右衛門さんに、心より哀悼の意を表したい。本当にお疲れ様でした。南無阿彌陀佛。

仏教というのは
わからんことを覚
えるのではない。
わかると思ってい
いたことが実は
少しもわかっていな
かったと気づく
ことである

発行日
2021.12.18

発行
真泉大谷派 高德寺

編集
住職 新井義雄
(法名 釋義祐)

《表紙の絵》

『京都・東本願寺 阿彌陀堂門
の柱の金具に彫られた獅子』

◆ 法語...訓覇信雄氏の
ことは

〒164-0002
東京都中野区上高田1-2-9

☎ 03-3368-6947
FAX 03-3362-8019

よ。